

**学校教育自己診断の結果と分析** [令和4年12月実施]**【全体】**

・「本校に来てよかった」「他の学校にない特色がある」「本校の取組は将来に役立つ」「共生社会に向け努力している」と肯定的に回答した生徒の割合は、昨年までの増加傾向から微減に転じたものの、依然として高い水準を維持している。また、同じ項目における保護者の回答の肯定率がすべて上昇しており、本校の教育に対する理解がさらに進んできたものと評価できる。今後も学校として生徒や保護者の期待にしっかり応えていくことができるよう取組んでいきたい。

・「教職員が協力している」と回答した生徒の割合がさらに増加し、保護者の肯定的な回答も増加に転じた。教職員の回答の肯定率も大きく上昇し、過去5年間で最高値を示している。引き続き教職員の意識の醸成や協力協働の体制づくりに努めていきたい。

・一方、「施設が整備されている」と肯定的に回答した生徒及び教職員の割合が減少に転じた。また、「地域との交流」についても、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率の低下傾向が続いており、特に教職員において激減している。経年劣化やコロナ禍の影響等も要因として考えられるが、学校の課題として認識する必要がある。

\* 「本校に来て（行かせて）よかった」 生徒 82.2% 《昨年 83.4%》 保護者 93.3% 《昨年 90.2%》

\* 「他の学校にない特色がある」 生徒 94.5% 《昨年 94.9%》 保護者 95.2% 《昨年 92.7%》

\* 「本校の取組は将来に役立つ」 生徒 86.3% 《昨年 86.9%》 保護者 94.4% 《昨年 91.1%》

\* 「共生社会に向け努力している」 生徒 91.6% 《昨年 91.8%》 保護者 94.2% 《昨年 84.6%》

\* 「教職員が協力している」 生徒 79.8% 《昨年 73.9%》 保護者 85.5% 《昨年 78.0%》  
教職員 84.8% 《昨年 80.6%》

\* 「施設が整備されている」 生徒 72.7% 《昨年 74.2%》 教職員 68.9% 《昨年 75.0%》

\* 「地域とかかわる機会がある」 生徒 32.5% 《昨年 44.1%》 保護者 72.6% 《昨年 74.8%》  
教職員 34.1% 《昨年 63.9%》

**【授業】**

・「主体的な学習のための授業の工夫」について、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が上昇に転じた。コロナ禍で制限していた体験型学習やグループワーク等を緩和したことによるものと考えられる。

・「論理的に考え表現する力」「他者と協働する力」「探求する力」の育成に関しては、保護者の肯定的な回答の割合が増加する一方で、生徒や教職員の時間は低下傾向にある。コアカリキュラムや各授業のさらなる活性化を学校全体でめざしていきたい。

・「視聴覚機器やICTの活用」については、昨年までの増加傾向から微減に転じたものの、依然として高い水準を維持している。「一人一台端末」の活用状況を踏まえながら、さらなる充実を期待したい。

・「家庭学習に向けての工夫」についても、生徒及び教職員の双方で肯定率が低下している。学力育成の一環として改善の必要があると考える。

\* 「主体的な学習のための授業の工夫」 生徒 79.0% 《昨年 77.9%》 教職員 95.6% 《昨年 91.7%》

\* 「論理的に考え表現する力が伸びている」 生徒 77.7% 《昨年 76.0%》 教職員 75.0% 《昨年 83.3%》

\* 「他者と協働する力が伸びている」 生徒 84.2% 《昨年 84.4%》 教職員 81.8% 《昨年 94.4%》

\* 「探求する力が伸びている」 生徒 80.2% 《昨年 83.8%》 教職員 83.7% 《昨年 83.3%》

\* 「視聴覚機器やICTの活用」 生徒 91.1% 《昨年 93.3%》 教職員 93.2% 《昨年 97.2%》

\* 「一人一台端末の活用」 生徒 81.8% 《昨年は設問なし》 保護者 88.6% 《昨年 97.2%》

\* 「家庭学習に向けての工夫」 生徒 55.3% 《昨年 56.5%》 教職員 34.9% 《昨年 36.1%》

**【人権】**

・「多様性を尊重し異なる考えの人ともコミュニケーションできる力の育成」について、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が上昇している。本校の根幹をなす「学校開き」「クラス開き」「託すHR」の取組のサイクルをしっかりと根付かせ、違いを認め合える集団育成をいっそう進めていきたい。

・「いじめ対応」について、生徒及び教職員の双方で肯定的な回答の割合が増加している。しっかりと取組んでいただいていることが学校への信頼に繋がっていると考える。いじめは絶対に許さないという姿勢を明確にしなが、引き続き対応にあたっていくことが重要である。

\* 「多様性を尊重し違いを認める力の育成」 生徒 86.0% 《昨年 85.2%》 保護者 83.7% 《昨年 80.5%》  
教職員 95.7% 《昨年 91.7%》

\* 「いじめなどを見逃さず対応している」 生徒 79.2% 《昨年 78.2%》 保護者 82.5% 《昨年 75.6%》

**【進路】**

・「進路について考えるための必要な情報や機会の提供」について、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が上昇に転じた。今後も丁寧な情報発信に努めていきたい。

・「HRや面談での進路指導」について、生徒及び保護者の双方で肯定的な回答の割合が増加した。また、「進路実現の取組」についても、生徒、保護者、教職員のすべてで肯定率が上昇している。引き続き進路保障に向けた取組の充実を図りたい。

\* 「進路について必要な情報や機会の提供」 生徒 85.1% 《昨年 84.4%》 保護者 87.5% 《昨年 80.5%》  
教職員 80.0% 《昨年 77.8%》

\* 「HRや面談で進路について指導している」 生徒 88.2% 《昨年 86.7%》 保護者 90.2% 《昨年 85.4%》

\* 「放課後講座や模試などに取組んでいる」 生徒 81.9% 《昨年 75.1%》 保護者 85.2% 《昨年 79.7%》  
教職員 79.5% 《昨年 72.2%》

**【生徒指導】**

・「自分をコントロールする力（自律心）が育っている」と肯定的に回答した生徒及び教職員の割合は増加傾向が続いており、保護者の回答の肯定率も大きく上昇している。授業や行事はもとより日常生活を通じて生徒の主体性や規範意識をさらに高めていきたい。

\* 「自律心や自立心が育っている」 生徒 82.9% 《昨年 82.0%》 保護者 85.7% 《昨年 76.8%》  
教職員 63.0% 《昨年 61.2%》

**【特別活動】**

・「部活動」について肯定的に回答した生徒及び教職員の割合は減少傾向が続いている。何らかの改善策が必要だと思われる。一方、「生徒会活動」については、生徒の肯定率こそ低下に転じたものの、保護者及び教職員の肯定率は上昇しており、生徒たちの頑張りに対する周囲の評価は高いと判断したい。

・また、「学校行事」に対して肯定的な生徒及び保護者の割合も増加しており、コロナ禍における制限を緩和してきたことが反映された結果だと考えられる。今後も生徒の主体的な活動をよりいっそう支援していきたい。

\* 「部活動に積極的に取組める」 生徒 77.0% 《昨年 80.2%》 教職員 63.6% 《昨年 75.0%》

\* 「生徒会活動は自主的に行われている」 生徒 85.4% 《昨年 87.2%》 保護者 81.3% 《昨年 74.8%》  
教職員 86.7% 《昨年 80.6%》

\* 「学校行事に楽しく参加できる」 生徒 82.4% 《昨年 82.3%》 保護者 92.9% 《昨年 80.5%》

令和5年2月10日

校長

**【その他】**

- ・「学校情報の発信」について、生徒及び保護者の肯定的な回答が大幅に増加している。ホームページのリニューアルをはじめ、さらなる成果が期待される。
  - ・「学校行事に参加した」と肯定的に回答した保護者の割合が倍増した。これもコロナ禍における制限を緩和してきたことが反映された結果だと考えられる。
  - ・「働き方改革」に関する教職員の回答の上昇傾向にあり、取組の定着が感じられる。今後も継続的に取組を進めていきたい。
- \*「学校は情報を提供するため努力している」 生徒 75.1%《昨年 66.6%》 保護者 82.7%《昨年 75.6%》
- \*「学校行事に参加したことがある」 保護者 56.8%《昨年 26.8%》
- \*「業務の効率化に努力している」 教職員 76.1%《昨年 72.2%》